

「新素材研究会」および岐阜案件活動報告（リーダー関口清）

2018年3月27日の理事会にて、新素材研究会の立ち上げが承認され、同年4月11日、第1回の会合が開催され、原則月1回のペースで開催しています。

活動内容： 新素材対象分野を以下の7分類に分け、それらの中の重要素材を抽出し、その特長、利用状況、素材メーカー・加工業者・部品メーカー・製品メーカー等を調査、中小企業支援活動に結びつける。

対象新素材

分類項目	具体例	備考
1. エレクトロニクス材料	炭化ケイ素、窒化ガリウム 酸化ガリウム	パワー半導体 インバーター
2. エネルギー関連材料	(リチウム)電池材料 個体電池	
3. プラスチック材料 熱可塑性 熱硬化性	各種樹脂、CFRP、CNF エラストマー	
4. 新金属	アルミ、マグネシウム 磁性材料、希少金属	
5. 生体材料	生体適合材料	
6. 無機材料	CNC、石の紙	
7. その他 接着技術、接着剤	ゴム、	

(註) 上記の接着技術については素材と関係ないが、新素材の利用には欠かせない技術(プラスチックと金属の接合、異種金属どうしの結合等新素材の利用拡大に必須の技術)のため研究の対象とした。

現在のものづくり中小企業の最終関係先は、自動車産業が圧倒的に大きいこと、そしてこの自動車産業はCASE、EV化、軽量化への対応の荒波に直面していることから、この産業全体の流れと対応を解説し、これらの新素材利用を含めての講演資料、ワークショップ資料を作成しました。

これらの資料は既に長野テクノ財団での講演、岐阜案件ワークショップ資料等で活用されています。